

第 2 章 現況調査

第2章 現況調査

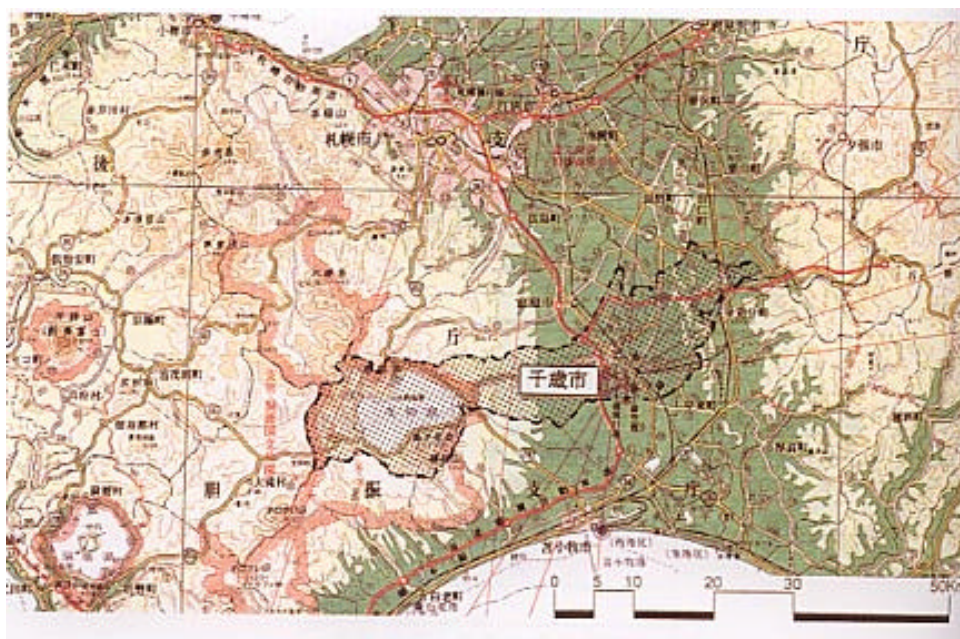
1. 千歳市の現況

1) 千歳市の位置・地形

千歳市は、北海道の中南部・石狩平野の南端に位置し、札幌市・苫小牧市など3市5町1村に接しています。

市域は東西に長く、西高東低の地形になっており、西部は国立公園支笏湖地区で、樽前山(1,041m)や恵庭岳(1,320m)など1,000m級の活火山が連なる山岳地帯を形成しています。東部は、支笏火山の堆積物によって作りだされた平坦な地形となっています。

千歳市の位置



2) 千歳市の植生

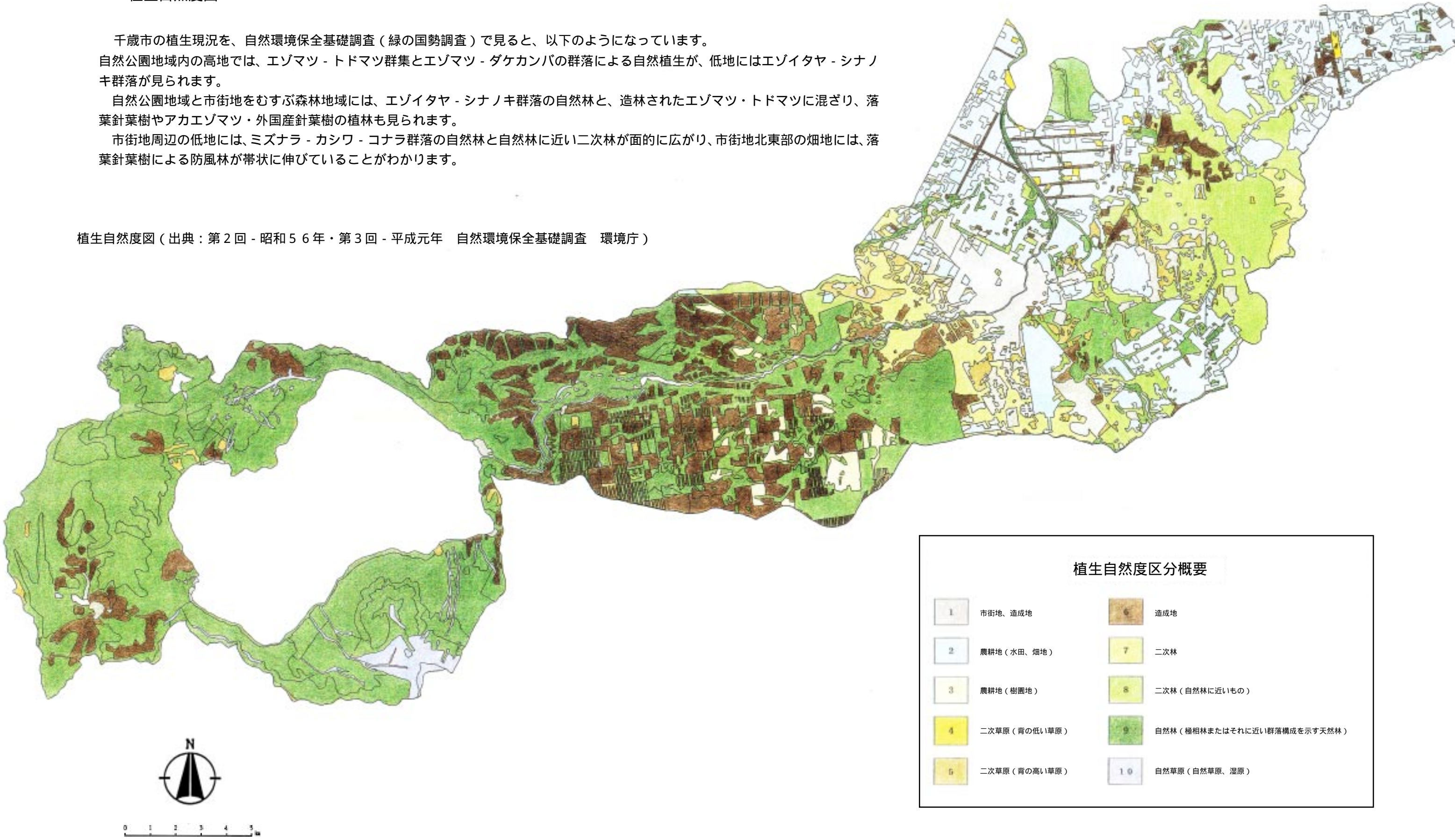
植生自然度図

千歳市の植生現況を、自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）で見ると、以下のようになっています。
 自然公園地域内の高地では、エゾマツ・トドマツ群集とエゾマツ・ダケカンパの群落による自然植生が、低地にはエゾイタヤ・シナノキ群落が見られます。

自然公園地域と市街地をむすぶ森林地域には、エゾイタヤ・シナノキ群落の自然林と、造林されたエゾマツ・トドマツに混ざり、落葉針葉樹やアカエゾマツ・外国産針葉樹の植林も見られます。

市街地周辺の低地には、ミズナラ・カシワ・コナラ群落の自然林と自然林に近い二次林が面的に広がり、市街地北東部の畑地には、落葉針葉樹による防風林が帯状に伸びていることがわかります。

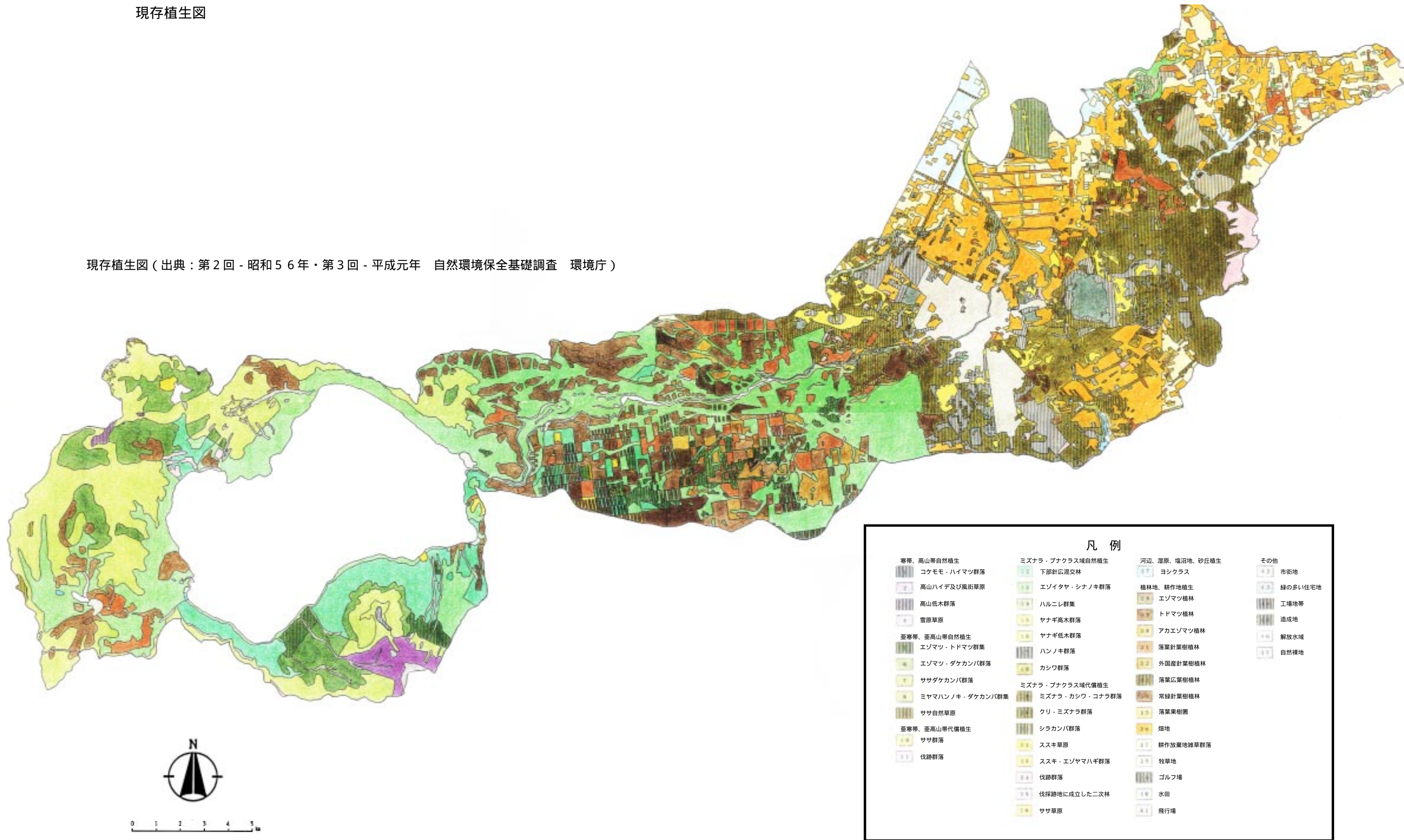
植生自然度図（出典：第2回 - 昭和56年・第3回 - 平成元年 自然環境保全基礎調査 環境庁）



1	市街地、造成地	6	造成地
2	農耕地（水田、畑地）	7	二次林
3	農耕地（樹園地）	8	二次林（自然林に近いもの）
4	二次草原（背の低い草原）	9	自然林（極相林またはそれに近い群落構成を示す天然林）
5	二次草原（背の高い草原）	10	自然草原（自然草原、湿原）

現存植生図

現存植生図（出典：第2回 - 昭和56年・第3回 - 平成元年 自然環境保全基礎調査 環境庁）



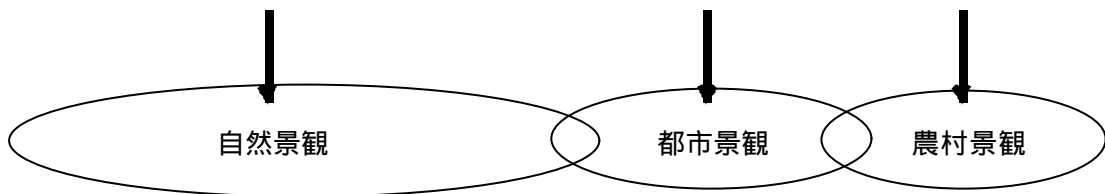
凡例			
寒帯、高山帯自然植生	ミズナラ・ブナクラス域自然植生	河辺、湿原、塩沼地、砂丘植生	その他
コケモモ・ハイマツ群落	下部針広混交林	ヨシクラス	市街地
高山ハイデ及び風街草原	エゾイタヤ・シナノキ群落	植林地、耕作地植生	緑の多い住宅地
高山低木群落	ハルニレ群落	エゾマツ植林	工場地帯
雪原草原	ヤナギ高木群落	トドマツ植林	造成地
亜寒帯、亜高山帯自然植生	ヤナギ低木群落	アカエゾマツ植林	解放水域
エゾマツ・トドマツ群落	ハンノキ群落	落葉針葉樹植林	自然裸地
エゾマツ・ダケカンバ群落	カシワ群落	外国産針葉樹植林	
ササダケカンバ群落	ミズナラ・ブナクラス域代償植生	落葉広葉樹植林	
ミヤマハンノキ・ダケカンバ群落	ミズナラ・カシワ・コナラ群落	常緑針葉樹植林	
ササ自然草原	クリ・ミズナラ群落	落葉果樹園	
亜寒帯、亜高山帯代償植生	シラカンバ群落	畑地	
ササ群落	ススキ草原	耕作放棄地雑草群落	
伐跡群落	ススキ・エゾヤマハギ群落	牧草地	
	伐跡群落	ゴルフ場	
	伐採跡地に成立した二次林	水田	
	ササ草原	飛行場	

3) 千歳市の土地利用の現況

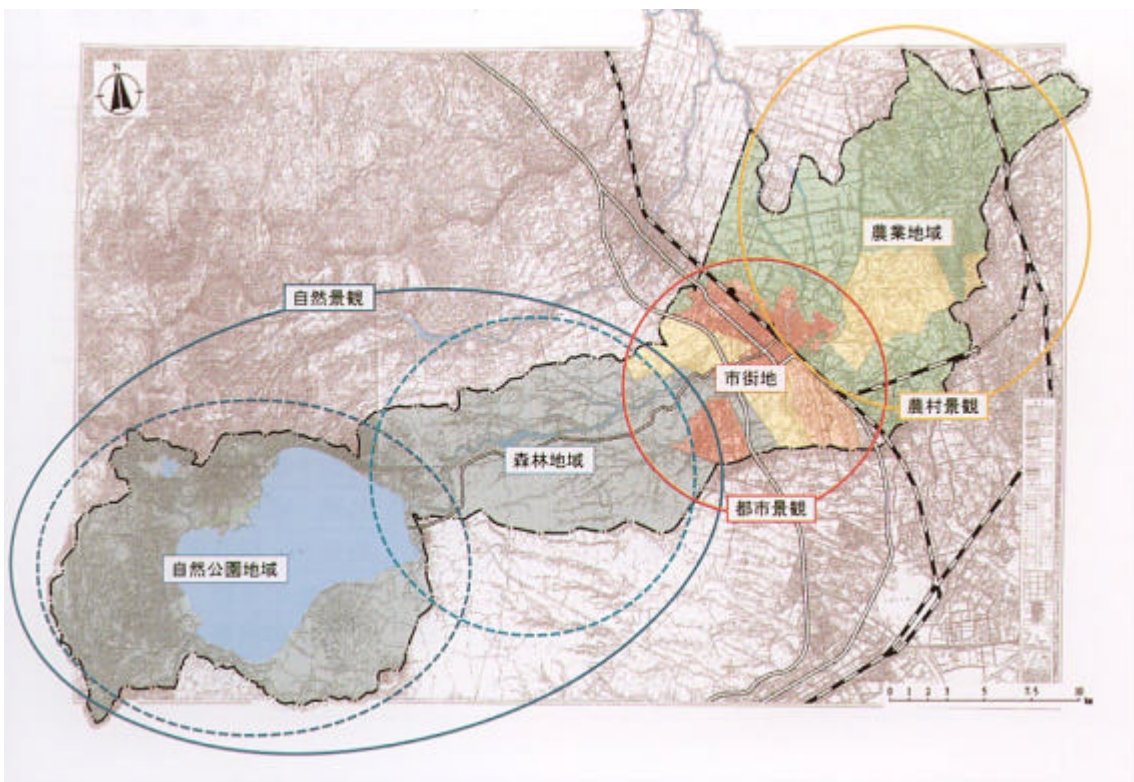
千歳市の行政区域は、西部の山岳地帯から東部の農林業地帯に向かって、自然公園地域 森林地域 市街地 農業地域と、明確な土地利用区分がなされており、それぞれの土地利用に応じて、景観は「自然景観」、「都市景観」、「農村景観」の3種類に分類することができます。

土地利用区分と景観の分類

西部山岳地域		東部農林業地域	
自然公園地域	森林地域	市街地	農業地域
・自然環境の保全 ・調和と適切利用	・健全な保護と育成 ・有効活用と利用増進	・都市機能の強化 ・良好な環境づくり	・優良農地の保全 ・農村環境の整備



景観分類図



4) 千歳市の景観要素の類型化

景観は、見る主体と見られる対象との相互関係によって、『眺望型景観』と『環境型景観』に二分されます。

眺望型景観は、主に行動空間から眺める景観であり、環境型景観はそれぞれの地域の中で、自らを取り巻く周辺環境としての景観をいいます。

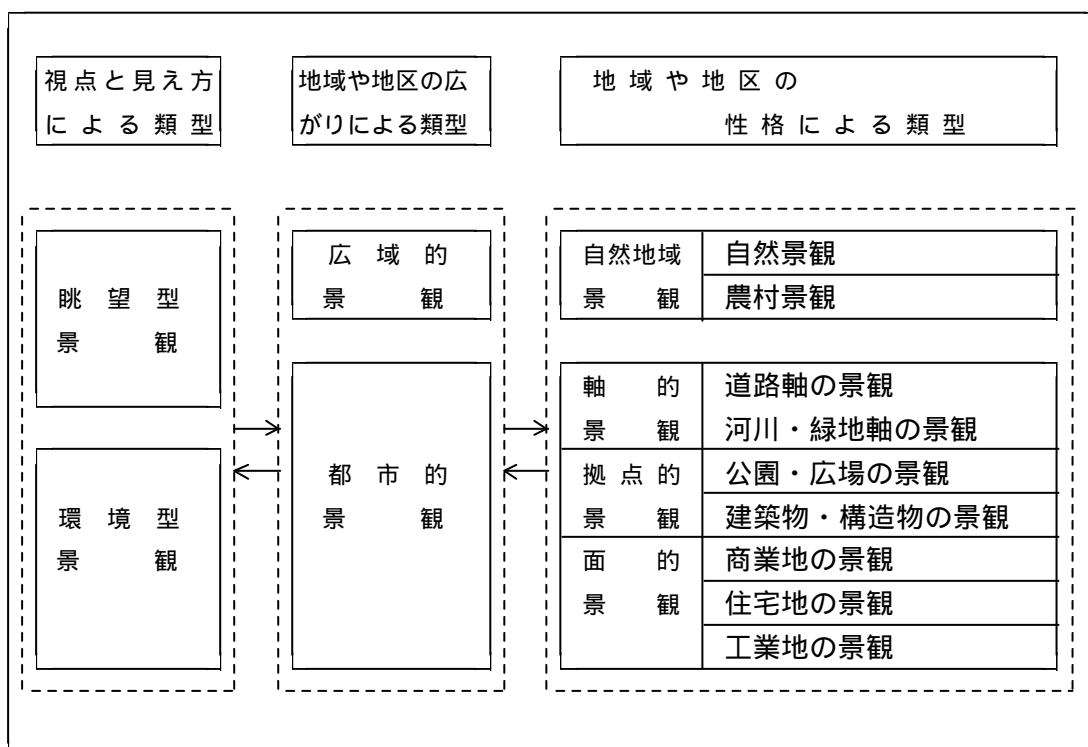
また、景観はその対象となる地域や区域の空間的な広がりから、『広域的景観（ランドスケープ）』と『都市的景観（タウンスケープ）』に分けられます。

千歳市の景観を、土地利用の現況に応じて「自然景観」「都市景観」「農村景観」に分類しましたが、このうち「自然景観」と「農村景観」は、広域的景観として『眺望型景観』に位置づけられます。

「都市景観」は都市的景観として『環境型景観』に分類されますが、この中には都市景観を形成する要素として、「軸的景観」「拠点景観」「面的景観」が内包されています。

さらに「軸的景観」に対応する要素として、道路軸・河川軸・緑の軸、「拠点景観」に対応する要素として、公園・広場・建築物、「面的景観」に対応する要素として、商業地・住宅地・工業地が存在します。

これらの関係を、景観を形成する要素としてまとめると以下のようになります。



5) 都市景観形成要素のグループ化

「ちとせ都市景観ガイドプラン」の策定にあたり、類型化した都市景観形成要素を以下のようにグループ化します。

千歳市の都市景観の現況を把握するための現況調査については、都市景観形成要素ごとに行い、都市景観形成の基本方針の検討については、グループ化した4種類の「景観」ごとにまとめていきます。

都市景観形成要素のグループ化

都市景観の構成要素	都市景観の形成要素	都市景観形成要素のグループ化
軸 的 景 観	道路軸の景観	『みちの景観』
	河川・緑地軸の景観	
拠 点 的 景 観	公園・広場の景観	『拠点の景観』
	建築物・構造物の景観	
面 的 景 観	商業地の景観	『まちなみの景観』
	住宅地の景観	
	工業地の景観	

2. 景観の現況

1) 自然景観の現況

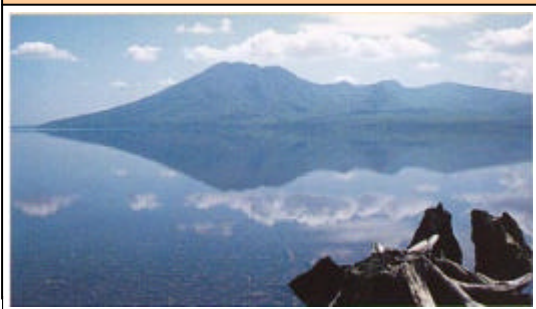
千歳市の西部には、原始的な自然につつまれた国立公園としての支笏湖や、樽前山・恵庭岳などに連なる山岳・丘陵地、他市町村へと広がる国有林があり、これらが一体となって、道内でも有数の雄大な自然景観を形成しています。

これらの良好な自然景観を形成する国有林のほとんどは、水源かん養保安林に指定され、ここを源として千歳川をはじめとする大小の河川は、まちなかに清らかで豊かな水をたたえているばかりか、千歳市民だけではなく、千歳川下流域に住む多くの人々へ飲み水を供給する大切な役割を担っています。

千歳市の景観を考える際に、これらの雄大な自然環境は、四季折々の千歳らしい景観をつくりだす大切な要素として、また、千歳市民の身近な憩いの場や、子供たちの遊びや自然学習の場として、市街地の景観形成に対しても重要な手がかりを与える存在とすることができます。

千歳市民が身近な存在としてその豊富な自然を再認識し、保全・活用すると同時に、自然と調和する生活環境の創出を実践した、都市景観の形成を行う貴重な資源として活用することが望まれます。

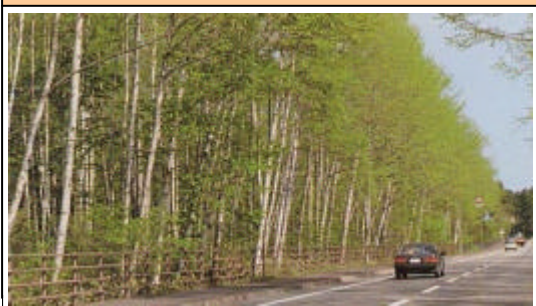
支笏湖



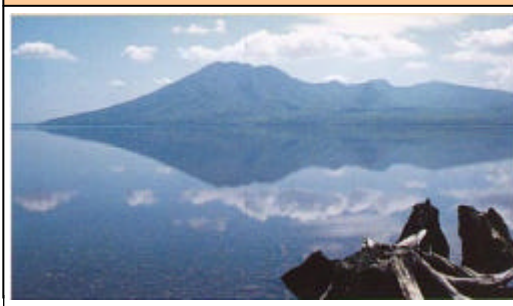
オコタンペ湖



シラカバ並木



千歳川



2) 農村景観の現況

千歳市の北東部には、北海道らしい広大な農業景観が広がっています。

平成11年2月における千歳市の農家戸数は374戸、そのうち専業農家は199戸、耕地面積は5,786haで、1戸あたり平均15haとなっています。

千歳市の農業の特徴としては、専業農家の耕地面積が広く、経営耕地面積に対する畑作の割合が87%と非常に高くなっており、小麦などの省力的な作物が多く栽培されています。

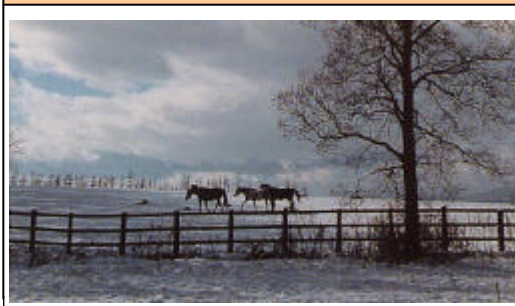
千歳市の農村景観の雄大さは、千歳川両岸に広がる耕地や、東部馬追丘陵の広大さにより感じとることができます。

また、農村に点在する農家屋敷林や耕地防風林が帯状に連なるさまなども、北海道らしい貴重な農村景観ということができます。

広大な耕地



牧場



農家施設と牧草地



耕作地



3) 都市景観の現況

軸的景観の現況

道路の軸

・道路

千歳市は、古くからの交通の要衝であり、現在も新千歳空港を核として道内の主要都市を結ぶ広域的な道路体系、交通体系の整備が進められています。

現在の千歳市内の道路構成は、道央自動車道、国道36号を骨格として、国道337号、道道支笏湖公園線、道道早来千歳線（中央大通）、道道島松千歳線、その他主要市道により構成されており、市街地開発事業にあわせた幹線道路の整備も進められています。

ここにあげる道路軸は、主に車両の通行のために整備された広域幹線道路（国道）、準広域幹線道路（道道）、都市内幹線道路とします。

道路軸の現況写真



（千歳市全景）

道路軸景観の現況写真

新千歳空港内



国道36号（JR千歳線との併走区間）



国道36号・中央大通分岐点



国道36号（樽前山への眺望）



道道早来千歳線（工業団地内）



国道337号（サーモンパークへ向かう）



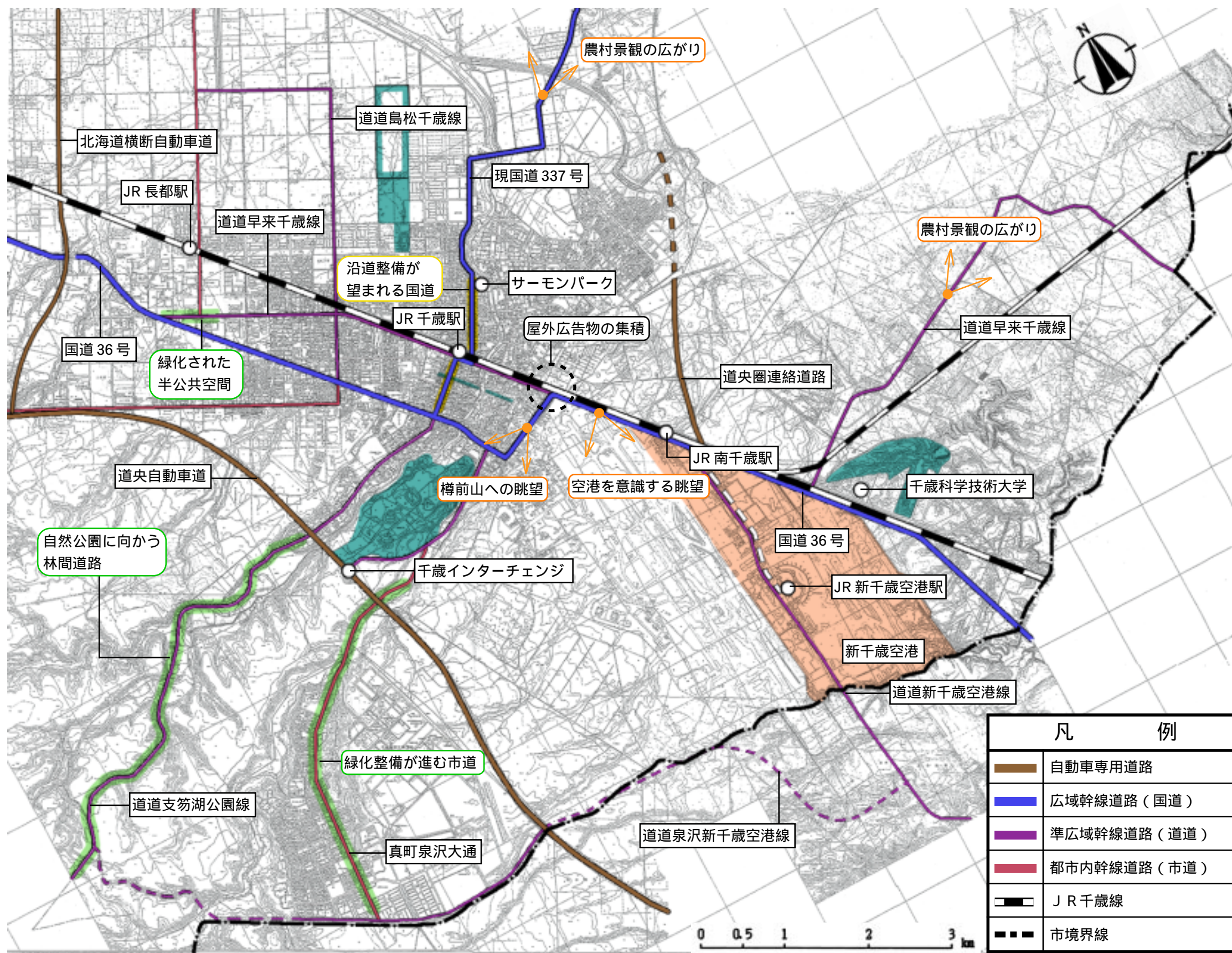
駅大通（JR千歳駅周辺から支笏湖方面）



真町泉沢大通（千歳IC分岐点付近）



道路軸の現況特性図



・街路樹

千歳市の街路樹は、都市計画道路等比較的新しい道路などで計画的に整備が行われており、市道では平成11年3月現在、高木数は12,839本となっています。

千歳市内の都市内幹線道路（主要な市道）には、街路樹の整備が進んだ道路が多く、良好な沿道景観を演出していますが、国道・道道といった幹線道路での街路樹整備は遅れているのが現状です。

また、幹線道路に植樹された樹木のなかには、電線類への配慮により過度に剪定されてしまったものが見受けられます。

主な街路樹の現況写真



（泉沢向陽台住宅地の街路樹）

街路樹の現況写真

駅大通（駅西側）の街路樹



道道早来千歳線の街路樹



J R 千歳線沿いの街路樹



長都駅周辺の街路樹



サーモンパーク前の街路樹



防風林と街路樹



勇舞川沿いの街路樹



泉沢向陽台住宅地内の街路樹



街路樹（主要な高木）の現況特性図

